

# ほろにか

令和2年4月15日  
全国卸売酒販組合中央会

## 「地場卸の活路」

北陸三県卸売酒販組合  
副理事長 酒井 道行

昨年の秋に、酒類業功績で旭日小授章の栄誉を授かりました。

平成13年に北陸三県卸売酒販組合の前身である富山県卸売酒販組合の理事長に就任してから、今年で20年目になります。ここまで来られたのも、ひとえに卸売組合に加盟する皆様のおかげと心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、今年も日本人が大好きな桜の季節がやってきましたが、新型コロナウイルス感染が拡大し、緊急事態宣言が出されるなど全国的な自粛ムードがより一層高まっています。

桜まつりや新酒まつりなどの春のイベントが軒並み中止される中、今年で北陸新幹線開通5周年を迎えた富山市では、3月21日に鉄道線路で南北に分断されていた富山市ライトレール（LRT）の南北直通運転が開始され、富山駅周辺で街が様変わりし賑わいが生まれました。

また、昨年、NBAドラフト一巡目で指名されワシントン・ウィザーズで活躍中の八村塁選手や大関に昇進した朝乃山関など地元出身者が全国的に発信されると県民にも元気が湧いてきます。

八村選手のツイートが発端で北陸三県でしか販売されていなかった「白えびビーバー」が爆発的な人気を博しました。ご存知の方も多いと思いますが、「白えび」は「ブリ」や「ホタルイカ」と並んで富山湾の三大海産物のひとつに数えられるものですし、大関朝乃山の父親が当組合員の会社に勤務している関係で、当組合にも明るい話題を提供してくれています。

一方、「酒は百薬の長」とも言われていますが、富山県は、お酒とともに薬も代表的な伝統産業で、江戸時代中期から300年以上の歴史を有し、「越中富山の売薬さん」とも呼ばれて慣れ親しんでいます。今回の感染症の治療薬候補「アビガン」は、唯一富山県で生産されており、今後、全国的にあるいは世界的に評価される商品が県内から出てくる予感もします。

私が経営している会社は、富山県内で主に清酒中心の商いをしており、それだけに富山県の動向は、会社の業績を大きく左右してきました。

酒類業界においても、世界や全国を視野に入れた商売と地域に根差した商売があると考えます。今後とも富山県らしさを追求した商品や商売を展開すれば必ず活路があると信じ、これからも県内の酒造メーカーや販売業者と連携し、酒類業界の発展に貢献していきたいと考えています。